

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 31

ASEAN グローバルプログラム に参加して

藤田 耀平

Youhei FUJITA

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2019年8月27日から9月5日の10日間、ベトナムのハノイ、シンガポールでの ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回の研修の具体的な日程を以下の表にまとめた。

表 研修日程

8月27日	ハノイ着、オリエンテーション
8月28日	鈴木栄光堂ベトナム社見学 Rikkei Soft 社/NTQ 社訪問
8月29日	ハノイ工業大学での PBL
8月30日	PBL、プレゼン
8月31日	博物館等の見学、自由行動
9月1日	シンガポール着 WASABI CREATION トン氏講演
9月2日	南洋理工大学（講義、研究室見学）
9月3日	Google 社訪問、ビジネスパーソンとの 交流会、加藤氏講演
9月4日	自由行動、シンガポール出国
9月5日	帰国

2. 参加目的

私が ASEAN グローバルプログラムに参加した目的は大きく2つあった。

1つ目は、現地で働いている人、学生の話を知ることや生活文化を体験することにより自分の人生の視野を広げることであった。日本にただ居るだけで大体同じような生活をしていて刺激が少ないと感じていたため、今回のプログラムによって内に向いていた意識を外に向け、自分の中の世界を広げようと思った。特にハノイ工業大学や南洋理工大学では同

世代の人たちの様子が見られるので、刺激になると思った。

2つ目は、自分のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高めるためであった。私は今まであまり人と議論し、発表するようなことがなかったので、今回のプログラムの PBL 活動でこれを機に積極的に人と議論し、プレゼンすることによって、これらの能力を向上させようと思った。

3. 研修内容

今回の研修で最も印象に残ったシンガポールの日本人ビジネスマンとのトークセッション、加藤順彦氏の講演会について報告する。

まず日本人ビジネスマンとの交流会では4名の方から話を伺うことができた。過去に留学に行っていたり起業されていたりなどアクティブに活動されている方々であり、非常に刺激を受けた。どの方々も英語が堪能であり、海外で働くには英語が必要であると改めて感じさせられた。また、今の勉強は後に仕事でも結びつくので今の勉強を頑張りなさいというメッセージを頂け、将来のためにも、これからの勉強によりいっそう身を入れようと感じた。

次に加藤順彦氏が行った「若者よ、アジアのウミガメとなれ」という講演会について述べる。この講演で特に印象に残ったことを3つほどあげたい。まず、これからの人生はみんな平等であるという言葉が印象に残った。大学からは高校までとは違い自分の力で友人関係などの周りの環境を変えることができる。加藤氏自身は大学時代、会社を立ち上げたり、既存の会社でトップになる事を目指す集団に属していて、その集団の全員が社長になったそうである。当時の環境があったからこそ今の自分があるとおっしゃっていた。私も今まで友達の影響で自分の考えが変わっていたこともあり、共感すると同時に、自分自身高いレベルに身を置いて切磋琢磨できる友達を作ろうと思った。

次に、企業は業界では通常、例えば5社のうち2社しか生き残れなくなり、まるで椅子取りゲームの

よくなるという言葉が印象に残り、危機感を覚えた。これは特に日本では顕著で、将来少子高齢化が加速し、人口がどんどん減っていくためであるが、人口が減っていくのは避けることができない。よって、これから伸びていく産業に目を向けることが大切である、という言葉に納得した。

最後に、若者とは18歳から34歳のことを指しており、若い世代からしか新しい革新などは生まれないとおっしゃっていたのも印象に残った。私たちのような若い世代が期待されているのだと感じ、その期待に添えるように頑張ろうと思った。講演会の冒頭で、アフリカの日本人が7人しかいない州で20代の講演を聴いた日本人が働いているという実話を聞き、ものすごく刺激になった。

若手ビジネスマンの話や加藤氏の講演を聞いて、思っているだけではなくて行動に移すべきだと感じた。加藤氏の講演はご自身の講演活動中で今回が最後の講演会とのことで、最後の聴衆となることのできたことを非常に光栄に感じた。



写真 加藤氏の講演の様子

4. おわりに

今回のプログラムを通して様々なことを学んだ。ベトナム、シンガポール共に町並み一つをとっても日本とは全然違って、新鮮であった。ハノイ工業大学では生活や文化が日本と全然違うので話が全くかみ合わないのではないかと心配していたが、ベトナム人の学生さんがものすごくフレンドリーで、そんな心配はすぐに無くなり打ち解けることができた。今まで外国人としゃべったこともなかったが、これからは様々な国の人としゃべっていきたく感じるようになった。

それに伴い、自分の英語力をもっと高めなければならないとも痛感した。人生で初めて英語でプレゼンテーションをしたのだが、ベトナム人学生が流暢に話すのに対し、スピーキングにおいて自分はまだまだ実力不足だと感じた。今後はスピーキング能力を重点的に磨きたいと思った。また、単語が分からずに聞きとれないこともあったので、単語学習も続けていきたいと感じた。

今回の ASEAN グローバルプログラムで出会った方々はどの方も非常にエネルギッシュで能動的に人生を送っておられ、自分もこのような方々に将来なりたいと強く思えた。これからはより一層、能動的に生活しようと思う。

最後にこのような成長できる機会を設けてくださったこと、また今回のプログラムでお世話になったすべての方々に感謝申し上げます。